

報告日 令和 8 年 7 月 21 日 (火)	報告者 吉武惇二
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ：(1)源頼朝の鎌倉幕府 (2)平家の滅亡 (3)富士の巻狩り (4)吾妻鏡のミステリー (頼朝の急死)
開催日時 令和 8 年 7 月 9 日 (木) 午前 10:00 ~ 12:00	開催場所 金沢公会堂第 2 会議室
参加人数 男性 9 名 女性 3 名 合計 12 名 (含む聴講者 5 名 欠席者 3 名)	
本日の講義は、(1) 源頼朝の鎌倉幕府、(2) 平家の滅亡、(3) 富士の巻狩り、(4) 吾妻鏡のミステリー (頼朝の急死)、の 4 点であった。 (1) 源頼朝の鎌倉幕府については、平家の滅亡と同時に源氏政権の成立を象徴する歴史的転換期であり、平安時代の終焉から武士政権時代への幕開けと捉えることができる。 平氏と源氏の大きな相違は、平家は戦場で滅びたが、源氏は骨肉の争いと暗殺で滅びた」といえる。 (2) 平家物語の冒頭文「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色盛者必衰の理をあらわす おごれる者久しからず 唯春の夜の夢の如し 猛き者もついには亡びぬ・・・」 平家物語の作者は「つれづれ草」(226 段)の作者兼好法師のいう「信濃の前司行長」(信濃の国の前の国司藤原行長)説が有力。 「平家にあらずんば人にあらず」と言われた平家も、元暦 2 年 (1185 年)に長門国赤間関 (現在の山口県下関市)の壇ノ浦の戦いでほぼ全滅した。 (3) 征夷大將軍となった源頼朝が、建久 4 年 (1193 年)、頼家と多くの御家人を伴い富士山麓で巻狩り行事を行った。その目的は、頼朝の権威の誇示と、12 歳の嫡男頼家が武家政権の後継者にふさわしいことを誇示することにあったと言われるが、この場において、日本 3 大仇討ちの 1 つといわれる「蘇我兄弟の仇討ち」と共に「頼朝暗殺未遂事件」が起きたが、黒幕をめぐる諸説があり謎めいている。 (4) について、「吾妻鑑」は鎌倉幕府の歴史を記録した書物であるが、鎌倉幕府の正史もかかわらず、1197~1199 年の 3 年間が記述されていない。現在においても何故欠落しているのか不明である。加えて、頼朝の死去が 1199 年 1 月であることを加味すると、北条氏の公式記録には記述できない何かがあるとみられる。これは「吾妻鑑」のミステリーである。	
次回予定 令和 8 年 8 月 13 日 (木) 10:00~12:00 場 所：金沢公会堂第 2 会議室 テーマ：(1)「承久の乱」と北条政子の名演説と北条泰時の道理に基く貞永式目 (2) 有能な鎌倉北条氏と頼朝以来の陰惨な権力闘争と粛清	